



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第37号 NO. 037

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2019年3月3日

防災講演会「女性の視点からの防災」開催

今年度は、外部から女性講師をお招きして防災講演会「女性の視点からの防災」を開催いたしました。講演内容についてご報告いたします。

日時:平成31年3月3日(日曜日) 10:00~12:00

会場:横浜市民防災センター(横浜市神奈川区沢渡4-7)

講師:正谷 絵美氏(防災士)

日本防災士会東京都支部 首都圏連絡協議会副理事

参加者:18名(横浜支部会員)



【講演内容について】

1. 自分の命は、自分で守る。

- 1) 高い階には泊らない、地震の揺れは高い階ほど揺れが大きくなる。10階以上の階で震度6弱では立ってられない。
- 2) 建物に入ったら、先ず避難口を確認する。生き残る事を考える。
- 3) 落下物に対しては、うつぶせになって三角スペースを作る背中に落下物が乗っても腕を使う事が出来る。

2. 災害を知る

- 1) 最悪な状況をイメージして判断する。
- 2) 断片的な情報から、全体像をイメージして判断する。
まさかこうなるとは・・・、・・・まさか、想定外
- 3) 自分の命を守るものをもって避難する。日常から一瞬にして非日常になる。

3. 命を救うためのトリアージ

トリアージについては、生々しい現場の話聞くことが出来ました。私が考えていたことと、現場の傷病者取り扱いが大分かけ離れていたことに驚きました。

- 1) トリアージにより負傷者の中で生命に危険を及ぼすような重傷者を優先的に病院に搬送する。
軽傷者は搬送しない、病院においても軽傷者まで手が回らないのが現状です。
- 2) 骨折くらいでは重傷者とは云えない、命に関わらない、開放骨折でも6時間以内であれば感染症の心配はない。
- 3) 市民が出来たら、救助者になって欲しい。
- 4) クラッシュシンドローム
2時間以上がれき等に挟まれていた場合は、クラッシュシンドロームと考えて行動する。
赤ワインのような尿が出る、血尿と間違える。直ぐに透析を受ける、人工透析高カリウム血症には透析しかない。大量の水を飲ませ続ける事が重要である。大量輸液を透析し、尿として排出させる。
止血帯をし、透析の出来る病院に搬送する。

4. 必要なものを備える

- 1) 災害現場では情報収集が欠かせない事から通信手段の確保が重要になる。
- 2) 携帯電話の予備バッテリーとして、ソーラー充電器等があると便利である。
- 3) 消費電力の高い位置情報(GPS)、Wi-Fi等は使用しない、エコモードで使用する。
- 4) 小銭が必要になってくる、硬貨を準備しておくことが買い物に重宝である。
- 5) 避難所は照明がないと真っ暗になるので懐中電灯等の照明器具があると便利である。

5. 北海道胆振東部地震について

胆振東部地震については、最大の問題はブラックアウトにより北海道全体が停電による通信網、交通網が支障を来したこと、避難所に於いては夜真っ暗闇になり何もわからない状況で照明もないことから、たまたま居合わせた地元の後援者達がツナ缶3個をストアで購入してカンテラをつくり照明として活用した。

そういう状況になりますと、よからぬ人が横行し性犯罪等が起きるようです。そこで避難所では、女性は1カ所に集まり、また、トイレに行く場合は数名と一緒に行動し犯罪を防ぐ方法をとっていたようです。トイレには絶対に一人では行かないこと。正谷講師のお話でした。

結果について

今回の防災講演会は、防災士として災害現場で活動していることから現場の生々しい状況が伝わってきました。

防災活動を実施していくうえで大変参考になりました。

何時ものことですが、比較出席し易い土・日曜日等に行っておりますが20名前後と少し寂しい感じがいたします。

今後の課題です。 文責 今井淳(横浜支部長)